JIPAT
The Japan Interior Planners Association Tokyo
News Letter
vol. 061
2008.11.20
東京インテリアプランナー協会　東京都品川区東五反田 5-25-19　東京デザインセンター３Ｆ　〒 141-0022

■ 知っててしらない、、、

成田の近くに房総風土記の丘という遺跡がある場所に房総のむらが作られている。その村のイベントに左官屋さんが出て実演をする催しがあった。今は見られない壁下地「こまい」から壁を作るのを来場者にさせ、教えるというイベントに参加した。その会場は江戸村があり写真のような蔵のある通りがあり、裏に回ると庄屋や武家屋敷が点在している。自宅もそうだが和室の壁と柱の間がすき間が出てきているので左官の親方の大崎英雄氏に伺った。『“きずりとんぼ”が入っていないのだよ』「きずりとんぼ,とはなんですか」と。すると道具箱から取り出して見せてくれた。これを柱に貼り付け壁土に絡まるとすき間が開かないのだ、と。

なまこ壁

他に壁土に混ぜるものはシラガスサ（麻）を使います。
下壁はワラを5センチくらいに切り混ぜます。「海草を使うのなんですか？」それは（つのまた）と云い、漆喰に使います。漆喰壁は消石灰に麻などの繊維質のものを刻んだスサ、フノリやツノマタなどのつなぎ材を加えて混ぜた材料。寺社建築、城郭、民家の土蔵などの外壁に使われました。
外壁に紋所や文字絵などの浮き彫りを創る鏝絵（マンエ）が施されるようになった。次第に内壁にも使われるようになった。漆喰は漆に関係なく（石灰）がなまったものだといわれています。

キズリトンボ

コマイ

ツノマタ

シラガ　スサ

「写真に見える白壁に飛出したお椀を伏せたようなものから折れ釘が出ているのはなんですか。」①あれは“ろく”とか“ちぶさ”とかいいます。土を何層にも塗った土壁は、厚みが２０～３０センチほどにもなり、蔵の中を火から守る役割を果たしています。そのため壁が重さでずれるのを防ぐためと、大風が吹く時あの折れ釘に被せ物を吊るすためだ。他には窓や入口の扉にくふうが見られます。扉の周りは段をつけて漆喰（しっくい）で塗り固めた「掛子（かけご）塗り」② 通常は開けておきますが、いざ火事のとき、扉を閉めると掛子塗りの段が重なり合って、どんな小さな火の粉も蔵の中に入れません。 大切なモノを火事から守る蔵には、各所にさまざまなくふうが隠されているのです。「なまこ壁」③ という壁の独特な幾何学模様。目地の白い漆喰部分の盛り上がりが、海にいるなまこを連想させることから名前がつきました。白と黒のコントラストが、どこかモダンな感覚を醸し出します。なまこ壁にはさまざまなデザインがあります。各地で職人が腕をふるい、独創的な模様が生み出されました。物を入れるための建物ですから、本来ならば囲われてさえいればいいはず。その蔵の壁になまこ壁が並ぶことで、より品格も上がり、より高級に見えたり、より守りが強くなったりする。蔵にとって幾何学模様にはそういう意味がある。なまこ壁の黒い部分は、平瓦（ひらがわら）④ という正方形の平らな瓦です。もともとは寺院などの床に敷く平瓦を、壁に並べてはり付け、白い漆喰で固めることでなまこ壁の特徴的な幾何学模様が生まれました。

なまこ壁が生まれた理由は、実は蔵の軒下に隠されています。火事が起きたとき、軒下には熱がこもりやすく、もっとも燃えやすい場所になります。そのため、蔵の軒はできるだけ短くする必要がありました。⑤
で雨が降ると下の方の壁が汚れるわけで、汚れが付かないようになまこが考えられました。もともと紺や黒は渋好みの江戸っ子たちの間で粋（いき）とされ外壁に使われるようになりました。白い漆喰で仕上げた上に、黒を塗ります。それが次第に内部にも使われるようになりました。川越えの蔵に今も見られます。それはぴかぴかで鏡のように光っています。現在の黒は市販されているものをつかいますが、川越の 黒漆喰の黒は、菜種油を燃やしてつくる「油煙」という高級なすすから生まれます。油煙を混ぜた黒い漆喰を、丁寧にこしたものが、「黒のろ」といわれる塗料です。真っ白に仕上げた壁の上に、「黒のろ」を薄く塗っていきます。ひび割れのないなめらかな表面にするためには、黒を「紙一枚」と言われるほど薄く塗る必要があります。「黒のろ」が固まってくると、次に絹布で磨きます。しだいに輝きが宿ってくる壁にさらに、『との粉』を打って、最後にはなんと素手で磨き出します。時間をかけてじっくり磨くことで、表面は鏡のようになり、顔が映るほどです。磨いていて音が出るようになると、手で触ってみると瀬戸物のようにつるつるしています。」と。

取材　情報委員　井上常雄

■ ぶらり、、、

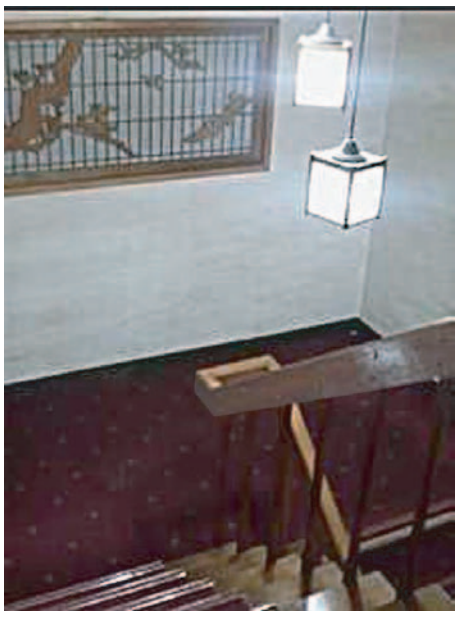
三島の近くに仕事に出かけた。
日をまたぐ用件だったので泊まりが必要で、伊豆が近いのでできればビジネスホテルの感覚で温泉宿がないだろうかと探したが,一人だと泊めてくれる所が見つからない。地元の大工さんに聞くと『伊豆長岡に南山荘という旅館があるので行ってみたら』と教えられ連絡をすると２食付きで9,350円だという。行ってみて驚いた、ここは今から100年前に開業していて当時は大和館と云い、伊豆長岡温泉の開泉宿で、現在の名は北原白秋が名付け親だそうで、昭和初期に逗留して南山荘を歌った詩を数種残しています。童謡歌（唱歌は小学校でうたわれた）童謡は北原白秋などが大正始めに『赤い鳥』という雑誌で童謡運動が始まった時唱歌とは別の区切りがついたそうで、童謡『城ヶ島の雨』がある。“雨はふるふる、城ヶ島の磯に、利休鼠の雨がふる～”白秋は『私の歌謡の中で、初めて作曲されて世に流布したものは、即ちこの『城ヶ島の雨』であつた。のみならず、日本でのかうした新歌謡の最初のものだといふので、、、』（白秋全集36）

南山荘全景

『雨』
雨がふります　雨がふる　遊びに行きたし　傘はなし
紅緒(べにお)の木履(かっこ)も　緒が切れた
他にも、「雨ふり」「砂山」「雨」「ゆりかごの唄」「この道」などなど一度は聞いたことのある童謡。
想像するに白秋は繊細な神経の持ち主だと思えます。その氏が不便な長岡にたびたび逗留したことはこの宿が気に入った証拠だと思えます。
「ただ歌うだけではなく、善く歌いたい、ただ歩くだけではなく善く歩きたい、ただ生きるだけではなく善く生きたい」と。
　また川端康成も『伊豆温泉記』のなかにここの主人は明治40年5月に温泉を掘り当てて、これが伊豆長岡温泉の始まりであると記しており、たびたび訪れている。

氏は熱海に住んでいて、「伊豆の踊り子」を昭和2年に発表した時は伊豆湯ケ島に荘を持っている。川端康成文芸読本の座談会で、『尾崎士郎、宇野千代、梶井基次郎達があんなに文士が陸続と不便な山の湯を訪れたのは、伊豆としても空前であろう、あれも一種のお祭り気分であった』と当時は熱海からは、歩きで伊豆長岡を通り修禅寺をへて天城越えをして湯ケ島の道のりで、途中の長岡には立ち寄ったようだ。
さて、宿は離れが数寄屋造りで52室あり、それぞれが違った造りになっていて、腰壁は面皮材、天井には網代あり、格天井あり、窓は気泡のある昔のガラスが使われており、壁は白漆喰で、障子は書院飾り障子で、詫び錆の粋をこらした伝統的な日本建築様式である。それもそのはず当時京都まで棟梁が出かけて様式を取り入れたとか。本館和室は10帖以上で縁があり庭が観賞できる式の造り。肝心の料理だが懐石料理もあるのだが私は寿司で予約をした。驚いたことには外のすし屋に食べに行くスタイルで、温泉に入り出かけることにした。温泉は52度のかけ流しで露天風呂、内風呂、石風呂、富士見風呂とあり、露天風呂は男女が時間使用。石風呂は24時間使える。さっぱりしたところで浴衣、下駄の温泉地スタイルですし屋に出かけた。
東京だとウン万円だと思われる特上である。この時世、集客をするため立ちよりの湯も用意され、泊まりで食事持ち込みも許されている。恋人同士だとお勧めできないが、友人同士や古女房連れだと数日泊まるにはお勧めである。

露天ふろ


あらゆる所に書院飾り障子がある

■ 途中下車

世界最高額の家具の紹介
下の家具は、1989年のクリスティーズのオークションで落札されたニューポートスタイルのセキュレタリー。
16億7,000万円です。

セキュレタリー

有栖川公園から六本木に歩いていてサァラ麻布のショールームの前に出た。しばらく振りだったので拝見させてもらった。
驚いたことに以前のクラシック専門店と違いイタリアモダンやトラディシュナルな家具に模様替えされていた。左の家具は‘KINDEL’社のリプロダクトです。
キンデル社は初めて聞いた家具メーカの名前です。それもそのはず昨年の10月に日本に初上陸したアメリカの本格的な家具で、サァラ麻布が独占契約をしました。これは業者間でもプロのデザイナーの間でも実現不可能と云われていたようで世界の本物と云われています。私はこのメーカーのことを知らないので教えてもらいました。
1901年ミシガン州グランドラビッズに誕生したKENDEL。
米国家具業界の歴史は18世紀の植民地時代に始まり、ボストン・ニューポート・ニューヨーク・フィラデルフィア・チャールストンの5か所で花開きました。
その後、19世紀後半に主要な家具メーカーはミシガン州「グランドラピッズ」に集まり、やがて「ファニチャーシティー」と呼ばれるようになりました。しかし機械工業化の波は家具業界に押し寄せ、ほとんどの名門のハンドメイドファニチャーが「グランドラピッズ」から消えていきました。

残された他社の優秀な職人たちは活躍の場をKINDELに求め、「匠の技と精神」を継承し数少ないハンドメイドメーカーとして今も世界に君臨しているのです。
グランドラピッズはミシガン州ではデトロイトに次ぐ2番目の都市で、1876年のフィラデルフィア万国博覧会のあとには、アメリカ合衆国の家具製造のNO.1の都市になり、以来「家具の聖地」と言われるようになりました。
工場での、細部にまで細かい神経を行き届かせる作業は、KINDEL家具製作工程において徹底されています。中でも彫刻部門の18名のギルド職人たちは徹底してハンドメイドにこだわり、手彫りやペイントの技術など全ての工程で100年前とほぼ同じ手法で現在も製作しています。
三代目ヘンリー・フランシス・デュポンが精力的にコレクションした米国の伝統家具は、家具の美術館として名高い「ウィンターツアー・ミュージアム」は、デラウェア州にある大富豪デュポン家の大邸宅がそれで、175以上の部屋に展示され8万9000点を数えます。
「キンデル」は、1980年にその独占製作権を与えられリプロダクトメーカーとなり、クィーンアン様式、チッペンデール様式、フェデラル様式、ネオクラシック様式のなかから注目すべき家具をセレクトし制作しています。
そのことにより写真のオリジナルがこのような高値で落札される次第となったそうです。他にバタフライテーブルは1億5,000.万で落札されています。

バタフライテーブル

その他 米国大統領府であるホワイトハウス。ジョージ.W.ブッシュ大統領のオフィスでもある大統領執務室（オーバルオフィス）。誉れ高きこの部屋にあるのは、CENTURY社の家具です。
以前からサラ麻布にあるこのCENTURYのソファーやダイニングテーブルは1インチきざみでオーダーでき、また杢材のカラーも16種類から選べるようになりました。 モダン家具では1階に展示されているSMANIA（ズマーニア）の皮革貼りのソファーやダイニングセットも一見の価値があります。ゼネラルマネージャーの森さんに面白いお話を沢山伺いましたが、書面の都合で概略だけお伝えしました。

■ 理事会トピックス（第101回　08年11月11日）

今号の新しい試みとして、「JIPAT・各委員会でどのような活動がなされているのか」を理事会での報告をもとにトピックス形式で掲載することを考えてみました。トピックスと言えど、各委員会を2行以内にはまとめきれず、泣く泣く削除してしまった内容が多々あり、改めて日々活発に活動しているのだとわかりました。JIPATをより良い協会にしようと尽力されている会員の皆様に感謝いたします。　（情報委員会 須藤）

【理事会】
平成20年度（第2四半期）の収支報告がなされ承認されました。

【総務委員会】
各委員会会員で補っている事務作業等の実態を調査、改善策の検討をすすめています。

【事業委員会】
IP受験セミナーの全日程が無事に終了したことの報告がなされました。多くの方にキャンペーンを利用していただき一般会員入会者が増加しました。

【情報委員会】
他国との交流を円滑にする目的でホームページの英語版を制作することが決定されました。

【会員交流委員会】
IPEC会期中にJIPA交流会が行われます。
※1月23日にホテル ルポール麹町にて新年会を開催することが決定されました。

【国際委員会】
IPECにて国際情報ブースを出展、カナダケベック州・香港DC・スペイン・イギリス等のデザインを紹介します。

【会員増強特別委員会】
IP受験セミナー受講者を対象にした交流会を開催しました。IP試験合格者にJIPATへの入会を勧めていきます。

【法人会員の会】
セミナー「IPって何？どんな仕事をしているの？」を開催、法人会員の若手を中心に115名が出席、好評を得ました。

【広報室】
入会案内パンフレットの更新・改訂を年度内に実施する予定です。

【JIPA】
IP受験者が微増しています。IP-CPD制度の試行を1年間行い検討をすすめます。

【IPEC実行委員会】
11/19よりIPECが開催、デザイナーズショーケース参加者が増加しています。

■ 編集後記

パソコンを使うようになって、漢字が全く書けなくなった。年のせいだと思っていた。ある時、慶応大学の若い研究員の先生がいいことを言っていた。『以前は分からない字があると辞書を引いていて、考えが途中で切れて仕舞った今はその分、文章に集中できる。』と、ほっとしている。

入退会者（社）報告　順不同	
入会	
正会員	福島　敦　　増本　陽子　　三谷　清
一般会員	枝　朋彦　　横山　百合子　宇佐美　倫子　今井　冨美子
	石原　彩子　藤田　良子　　長嶋　亜紀　　西脇　佑
	川浪　有紀　丹澤　爲　　清水　理都子　井口　幸子
	港川　朋子　根津　歩美　　フランク・ラ・リヴィエル
法人会員	ナカタケ（株）

編集長　井上　常雄

発行者：東京インテリアプランナー協会　会長　志村　美治　　編集者：情報委員会

2008.11